

第28回尼崎市動物愛護管理推進協議会議事要旨

1 日 時

令和2年1月27日（月） 14時～15時30分

2 場 所

尼崎市保健所集団指導室

3 出席者

(1) 委 員 7名（敬称略）

植村興、三田一三、古田一夫、會田道彦、田上美穂子、西尾美香、早瀬光希

(2) 事務局 4名

西村生活衛生課長、林所長、野村技師、桃原技術員

4 議事概要

(1) 動物愛護センター収容施設改修について

(2) 次年度協議会に向けた総括について

<意見等>

(収容施設の改修について)

- ・収容された動物福祉の向上と譲渡希望者が見学しやすい施設を目指したい。前時代的な暗さを払拭できるような明るいイメージがいい。
- ・猫部屋は隔離スペースをフェーズ分けしたい。感染症の相互感染リスクを避ける観点から複数の部屋を設けたい。
- ・協議会では猫の話ばかり上がっているが、犬の収容数の維持確保も重要である。尼崎市市内には野犬がいるし、これからも突然一気に5、6頭や大型犬を収容する事はある。
- ・施設の一角に猫用のガラス張りの部屋を設けるのはどうか。全体的にガラス張りにする必要は無い。見学者が見やすければそれで良い。あと、空間を上下に動き回れるようにキャットウォークや隠れるスペースを設けるのはどうか。
- ・大部屋だと一回に入れられる猫の数が限られ、猫同士の相性の問題もあるため、案外スペースが無駄になるのでは。

- ・廊下の天井部分に猫を下から見られるようなアクリルパネルを設置するのはどうか。
- ・成猫を収容する機会が少なくない中で、相性の合わない猫をいかに効率よく収容していくかが大切なので、その意味で大部屋はネックになる。
- ・多段ケージは一段設けただけでかなりのスペースを使用してしまう。1匹あたりの容積は狭くなるが、壁面に収容できるような構造はどうか。
- ・隔離スペースのフェーズ分けだが、昨年センターでパルボウイルスが流行した時、一番困ったのは区画されたたくさんの小部屋がなかったことである。改修後は3フェーズ程度の群分けで細かく飼養管理できるようなスペースを組み込みたい。小部屋の出入口では完全な消毒を可能にし、ウイルスの蔓延を食い止められるようにしたい。
- ・犬の収容スペースは4房程、小型犬から中型犬を入れられるようなものを一角に置き、大型犬から中型犬を収容できるような区画された部屋を2部屋程設置する。計6頭分の収容場所を確保するが、犬が部屋にいない時は隔壁パネルを押しやって1部屋に変え、そこに猫を置く事ができるような構造はどうか。
- ・収容犬間で感染症が発生した際に、隔離スペースで飼養できるように犬用として最低2部屋は用意しておきたい。
- ・キャットタワーやキャットウォーク等、縦の動きが可能な物をいっぱい設置できたらいい。収容室を多目的室にして、多頭飼育の猫をたくさん収容しないといけなくなった時等にいろいろ使えるような部屋を用意するといいいのでは。多段ケージを置くことも可能だし、できるだけたくさんの猫を置いてあげられる。
- ・現在の機械操作パネルを取り払い、飼料調整室的なものを作ればよい。
- ・収容施設の奥に車庫があり、車が1台止まっているが、この場所は何とかならないか。ドアとか壁や天井も物々しい感じがする。全て取り換えた方が良いのでは。
- ・猫のスペースは一つ一つ区切った方がいい。相性の問題もあるので。猫は上下運動ができれば良いから、部屋の幅が狭くても、台を作ったりして上に逃げられるようにする。施設の真ん中には触れ合いブースを設け、馴れた猫達が遊べるようになっていたらいい。猫同士仲良しなグループを5匹ずつぐらい触れ合いブースに放し、里親希望者がかわいい姿を見学できるようにしたらどうか。
- ・ペットショップみたいにガラス張りのショールームみたいな感じで、猫を四方から見られるようにする。かわいい盛りの子猫たちを見て回れるように。
- ・以前三宮に行った時に、一面ショールームみたいな感じで一つ一つ区切っている感じのペットショップがあった。動物園じゃないが、明るくて見やすかった。また、部屋は猫カフェのような感じで、靴を脱いで上がれるようにしたい。
- ・全面アクリルだと掃除が大変だ。猫が吐いた時に吐瀉物が周囲に見られることになり、愛護センターは掃除をしていないと誤解される恐れがある。
- ・掃除がしやすい構造は大切だ。部屋が清潔に見えるアイデアも必要である。

- ・耐震関係では柱が一番問題だと思う。もし部屋を拡張するために柱を撤去しても、建物が持つかどうかまではわからない。外側の補強だけで耐震を確保できればいいが。
- ・部屋の外扉を内扉に変更する事で、広さを確保できると思う。
- ・素人が図面を考えるのは酷だ。動物園のように広いガラス張りにしたらいいのではないかな。
- ・多頭飼育の猫を収容する時に、段階的な段差を壁際に設けておけば、フラットにしておくよりたくさん収容できると思う。
- ・市の建築課に相談したところ、大体ではあるが、壁等の撤去を想定すると建設費用が億単位になると聞いている。
- ・車庫に古い自動車が置いてあるが無用の長物ではないか。その車を処分して収容部屋にしたらいい。
- ・車は狂犬病予防注射の集合注射実施の際、必ず2台必要なので、廃車をして減らすことはできない。
- ・自動車を建物外に置いて、車庫を空ける事は出来ないのか。
- ・建物外は県の土地なので、永続的に外に晒した状態で車を停める事は難しい。公用車はシャッターの降りる車庫で保管する必要がある。
- ・今の大型車は廃車して、小型の車に買い替えるのはどうか。
- ・車は簡単に購入できる金額ではない。結構な金額なので即断で買い替えるのは難しい。
- ・多頭飼育問題の猫を最大限収容できるようにしてほしい。ボランティアの収容には限界がある。今でも2百匹以上抱えている。しかも多頭飼育問題の猫は躰の良い猫ではなく、高齢の個体が多いためすぐに貰い手が付かないし、ボランティア独自で譲渡会をしても減らない。だから動物愛護センターがそれらの猫全ての面倒を見て、譲渡会をしたらよい。
- ・動物愛護センターの収容数は改修後も30頭収容出来たら良い方だと思う。100匹、200匹のような桁違いな飼養は現実的に不可能である。
- ・大阪では保健所にアライグマが持ち込まれるが、一番持ち込まれたら困る動物である。
- ・動物愛護センターにはアライグマの持ち込みは無い。そもそもセンターは野生動物を収容していない。
- ・猫を収容できる部屋を2部屋か4部屋設け、犬収容室も犬が収容されていない時は猫の収容部屋として活用でき、感染症の拡散防止のための隔離スペースにもなり得るような構造にしたい。
- ・他の自治体に出張に行って、収容施設を視察してはどうか。改修の際の参考になるのでは。
- ・施設視察のための出張旅費が高くて出せないというのであれば、動物愛護基金から出張費を出せばよい。

・収容施設を擁する長野市や大分県でも、最初は理想的な設計だと思い建設しただろうが、実際に運用している今、色々な欠点が出ているかもしれない。一般的な住宅でも、3回立て直さないと本当に満足する家はできないと言われている。他自治体を参考にすることで、机上では分からない改善点が見つかるはずである。

・日本猫、いわゆる雑種猫は接触すると結構怖い事が多い。気を付けないと飛び出してきたり爪で引っかいてきたりする。普段は大人しくても、環境が変わると噛んできたり気性が荒くなったりする。逆に純血種は大人しい事が多い。日本猫や普通の保護猫を広いスペースに入れて大丈夫かなと思う。広いと上の方に逃げて行ったら捕まえられなくなる。何を目的に部屋を設けるのか、猫を見せて楽しませるためなのか、世話のしやすさはどうなのかといった事をよく考える必要がある。里親希望者に猫を触りたいと言われてスムーズに捕まえられるのか。おそらくそのような場合、猫は寄って来てくれないだろう。人馴れをしていますが、猫は突然攻撃的になる事がある。

・自分たちの自己満足であれこれと考えるのではなく、猫の生態や行動を第一に考えて話を進める事が大切である。

・ブリーダーの猫を見ていても、綺麗な猫はいない事が多い。きちんと管理されておらず、小さい檻に入れられていることもある。血統書付きの猫だからと言って、扱いやすいとは限らない。来所者に猫が生活している姿を見てほしい。猫カフェでも、猫に近づかないでとか抱きに行かないでとか、猫と触れ合うルールを設定している。猫も機嫌がいい時と悪い時があるので、ルールが無いとトラブルの原因になる。

・猫を収容するスペースはすごく広いものにせず、四畳半ぐらいのスペースにして、代わりばんこに慣らして出すのが良いと思う。

・猫も収容され始めの時は馴れないし威嚇もしてくるから、小さいスペースで馴らす事から初めて、ワクチン投与や感染症チェックといった段階を経る毎に部屋を移していき、馴れてきた段階で少し広い部屋に移して、今度は猫同士で共同生活をさせるといった感じに進めていけたら良いと思う。いきなり広い部屋にたくさんの猫を入れると、家庭内野良を作る原因になってしまう。

・人が猫引っかき病を発症すると、手術が必要なぐらい重篤化する事がある。世話をする人や見学者がそうになってしまうと大問題である。広くかわいくを考えるのではなく、猫の世話をする人には仕事がしやすく、里親希望者には猫が貰いやすい環境を考える事が大切ではないか。

・正直言って広いスペースは必要ない。程々のスペースで猫を分けられるようにして一つ一つを綺麗にしておけば、里親希望者が猫に触れ合いやすい。フリースペースを設けるにしても広さは畳2畳分で十分である。

・猫の収容スペースは小さい方が、1頭1頭の飼養管理がしやすくなり、下痢の有無等、健康状態もきちんと把握しやすくなる。譲渡希望者も、手を入れてみたら寄って来る等

の行動確認が容易になる事で、馴化の度合いが判断しやすくなる。スペースを広くして動物園みたいにしてかわいいとかやるのはペットショップの販売方法であり、そんな風にする必要は無い。今後は新施設を稼働している自治体の現状及び利点・欠点についても研究をした方が良いと思う。

- ・軸足を保護に向けるのか譲渡に向けるのかによって展示の仕方が180°変わる。どちらを向いているのか全くわからない。
- ・新しい意見や良いアイデアがあれば青写真の検討を進める材料にしたい。

(次年度協議会に向けての総括について)

- ・最初は様々なタイプの防護服のサンプルを動物愛護基金で購入すればいいが、もし購入する製品が決まったら、基金のお金は使用せず、多頭飼育問題を放置している福祉関係等、責任を取るべき部署が購入すべきだ。
- ・多頭飼育現場にボランティアができるだけ入らないようにし、代わりに市の職員がしっかりした防護服で入る事になっている。防護服の購入予算は、動物愛護基金から支出する話で既に決定している。
- ・多頭飼育現場の衛生状態は感染症に罹る一歩手前だと思うので、動物愛護基金で防護服のサンプルを購入した後は、市の感染症対策部署に対し、本格的な購入に向けてお金を出すように協議してほしい。
- ・最近のある大学の先生の発表によると、学校での学校飼育動物の採用率が落ちているらしい。特に初等教育現場での動物離れが進んでいる。
- ・現在、インフルエンザ的なもので大変な騒ぎになっている。感染源の動物は分かっている。それが指定伝染病になると強制的に移動禁止になる。
- ・世間には人間と動物を離すエネルギーが充満している。我々には動物と人間が一緒にいても大丈夫と言う事を保証してあげる大切な役割がある。
- ・動物の管理はものすごく大事である。疎かにすると大変な目に遭う。
- ・施設改修は大きな予算が関わってくるので、他部局との折衝で難しい部分があるかもしれない。我々はバックアップできるような資料を揃える必要がある。

以 上